



後之小文

全

二百廿九

四七九三



笈之小文序

風羅坊芭蕉菴桃李青之函こゝ
今此乃遠達人なり其門葉はらるる
茂つて月くまの盛なり門葉推る
翁や平のいは皆芭蕉翁ありと
知れども是は戸深川の庵室より因旅
路に於て所て芭蕉と植葉し
るなりし故にへし此翁上りり



さくね^た時^たす^すく^くれ^れ小^小記^記と^と集^集
これと^となる^{なる}めて^{めて}方^方の^のこ^こま^まい^いら^らふ
積^積へ^へ漸^漸結^結翰^翰と^となる^{なる}屋^屋敷^敷は^はを^を
焼^焼て^てせ^せを^を戲^戲て^てい^い哥^哥仙^仙の^のま^まと^とあり^{あり}月
ま^まの^のり^りー^ーて^てい^い四^四十^十四^四百^百額^額れ^れ色^色と^と傳^傳
爾^爾來^來門^門葉^葉み^みと^とと^とも^も唯^唯乙^乙州^州
ま^まの^のこ^こ採^採見^見や^やい^いむ^むて^て溺^溺て^て群^群弟^弟
と^と共^共よ^よせ^せさ^さる^るこ^こと^とな^なめ^めむ^む今^今般^般

梓^梓ま^まち^ちり^りい^いち^ちう^うて^て世^世傳^傳と^と廣^廣ふ^ふせん
と^と欲^欲し^して^て物^物す^す少^少し^しも^もも^も何^何も^も病^病子^子
遇^遇て^て息^息忽^忽暫^暫念^念と^と俟^俟ひ^ひり^りなる^{なる}
江^江州^州大^大津^津松^松本^本之^之隱^隱士^士觀^觀桂^桂堂^堂
砂^砂石^石子^子
宝^宝永^永四^四丁^丁亥^亥年^年春^春乙^乙州^州之^之因^因
慙^慙求^求不^不得^得止^止深^深筆^筆畢^畢

笑之小文

風羅坊芭蕉

百骸九竅の中は物もかりまぬ付ては
死坊やう滅すすもけりか坊に破れ
やすしむるもとりまやあそこれお
向と好と久し独り生に活れをうり
しなすある時を俵て放擲せん
ふとあひある時をすすて人よ

のこころのこころのこころのこころ

ふてはるるるるるるるるるるるる
男も立むるるるるるるるるるるる
さくられ暫く夢をて馬と雲とを
さも是らるるるるるるるるるるる
舞をうしてはつて花子様を
のこころのこころのこころのこころ
雪舟の繪をおびるるるるるるる

其方かするるるるるるるるるるる
よおきるるるるるるるるるるる
かするるるるるるるるるるる
さしおるるるるるるるるるるる
像をよあつるるるるるるるるるる
花にあつるるるるるるるるるるる
と出るるるるるるるるるるる
造化よとするるるるるるる

中江月一物不^レ定^レかたのま^レく^レし
力^レを^レ沈^レ系^レ流^レり^レ末^レち^レま^レく^レん^レ地^レし^レん
旅人^とある^ふよ^とれ^ん初^とれ
又^と山^と東^とを^と宿^とく^とり^とま^とん
忠^誠乃^は信^者也^とく^とん^との^地脇^を
竹^て其^の角^亭よ^おお^て園^送り^ん
して^あす
樹^をあ^らよ^のの^いん^旅の

け^白き^露沾^公り^下り^給り^場
ゆ^りも^らと^とな^むむ^をの^物也^{して}田
な^款殊^門人^ホある^の詩^文多^くと
ま^て信^の或^の系^の流^の抄^を包^らす
志^と入^す紙^布綿^小な^らん^をの
帽^子志^しづ^めれ^るの^いん^送り
つ^らひ^てお^お寄^れる^をと^くし^ま

くらほし あつる ふん ねと か 別 監 よ
 海 け ー 多 庵 子 酒 書 辨 材 事 り
 て の 書 と 説 く ふ あ と お い ひ ち ま
 せ ら く を 好 め る 人 の 首 途 す ら
 ま し ぬ ら り と い ふ お ろ く と を
 雅 れ た れ

柞道の日記中りふとのを紙氏
 長明阿佛のたふ文とゆふい情

と 通 し て ら り 餘 を 皆 付 れ ぬ
 ひ と 其 精 粕 と 改 め り あ へ る す
 由 して 淺 智 經 才 れ 筆 子 な へ く
 も あ へ ず と 目 を 海 降 り と ら
 晴 て そ こ よ ね ま か し こ 子 何 と 云 川
 流 れ ら り な り や ら れ も り
 へ く 先 は れ も も 苦 さ の 種 煎 れ
 と ら ひ の あ い し ふ ふ も ち や う れ

是れもまた一々示して此系を残り
 山魁がまうのくまな柱も且ま
 たまの程もあらぬまの俤り
 ままのひなうへりすれ思ふく
 やんやの書集ゆるをに酔
 者れ憶物なひくあつ人の
 護言するしんひまをさへ人
 又亡懸せし

心海ほとまりて

早雲乃園とんこや清なる

苑を舟雅亭公れ此の向まは雨坊
 孫ひて初も遠くながみこたは
 くらふ海と中よ海とくも海一
 孫ひをくも月かやふひたな
 まりまのこころとあひあひ

系中のまをまの 系中のまをまの

三川の國保正とていふは、
志のひてみるるごとく、
まの誠人は清き一ての海に
流さよひ二十五里舟にりて、
古田より

そがねう人痛むを頼りて
あまは縄を田の中より細くあり
て海より吹よる風をいかにあし

その日あるよま水ぬれは所

保良村より伊良古海へま
ある一ここのまぬれ地はなま
伊良古の海へてころまぬれも
いふやうにあまの万葉集の
るまの肉子撰入られし
暮らると振ふまよつこ
りや昔のよまの

まはし海の子はこゝろのちのち
海はあつたつらつらと
よありつらつらと
なつたつた

なつたつたつたつたつた

熱田御所

麻呂くも侍も清く

花た乃人こよむる

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

あつたつた

あつたつたつた

あつたつたつた

そめいしむやうの　　いりぬあつしお
かきかきよかた

ゆきしりぬらぬいぬいぬいぬいぬい
みんもす

藤原くみみちの
藤原の

青くらりらくくくくくくくくくくく
日永のいりりりりりりりりりりりり
よるやそくくくくくくくくくくく

藤原

あつなむ枝くくくくくくくくく

そめいしむのあより云出ぬれぬ
あつなむ

旧里や隣の藤原屋ここのち

あつなむそのくくくくくくくくく
酒のいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬい
いりぬあつしお

新巻

ままきりてまゝの野らら

植まきやうけりふの一二寸

伊賀乃國石波の庄よりふ雪は後
系上人の四徳の儀津山勅大徳
とや云ふまゝりそ千歳れ形を
なりして伽藍の破れて礎と^{はれ}あし
坊人をきりて田畑とく名のせり

丈六乃も像の昔れ縁子埋て清く
のゝ現者やあまのけりや人を
の道新いすまの令あうまのゆる
其代入るもあうまのあうまの
計くるれまゝを獅子乃れたを
蓮の上は堆り双林の枯れ
ゆるまのあうまのまゝを
丈六乃のまゝりまゝの上

山崎 山崎 山崎

洋野山回

何乃其也也也也也也也也

裸乃其也也也也也也也也

山崎山

山乃其也也也也也也也也

龍尚舎

物乃其也也也也也也也也

細代民於也也也也也

梅乃其也也也也也也也也

山崎庵舎

山乃其也也也也也也也也

神坂の山に梅もももももも

山乃其也也也也也也也也

山乃其也也也也也也也也

山乃其也也也也也也也也

うーいんてんてん

海子良子しんてんてん

祚恒世のあつたてんてん

海子良子しんてんてん
のたろいんとてんてん
うーいんてんてん
かのもんてんてん
いんてんてん

うーいんてんてん
てんてんてん
かのもんてんてん
いんてんてん

乾坤無住同行二人

うーいんてんてん

うーいんてんてん
百編

張の具をふくむるは、
皆松栢の根も木の幹も、
つ合好や、乃お尻等か、
なんやあま包て、
いそすぬ、
おしこゝろ、
弟おて、

初敷

まのちや、
はくはく、
雨

万菊

首飾

ねみきり、
龍門

三端 多武峯

勝峠

多武峯ヨリ
龍門(越)

二、三、

龍門

龍のたもとやよきれを産むらん
酒のこころはらんかほ然のち

西河

おろく。心吹ちる。然乃を

蜻蛉の流

布海の流の布海のふくらみなり
山の奥より

仲豆柴田の川上より

布の流

大和 舞西の流

銜尾をへおろす

橋

橋よりこころをくちりていぬ里に里

日をせよききてよびやあなはらふ

扇を酒にむかひやらる橋

苦清歌

春海のこころをくちりていぬ里に里

よりの世に三つを飾りて暖かき世
のまじりておむすいぬは乃のそ
ぢふとぬおむすいぬは乃のそ
てあつた接奉公のむすいぬは乃のそ
あつた接奉公のむすいぬは乃のそ
是のむすいぬは乃のそ
云々おむすいぬは乃のそ
おむすいぬは乃のそ

いふを伝ねる家もむすいぬは乃のそ
のむすいぬは乃のそ

三つ野

ちちんせむすいぬは乃のそ
ちちんせむすいぬは乃のそ 万菊

おむすいぬ

おむすいぬは乃のそ

おむすいぬ

疏もやたれて空のまじりて
のほろよめりし海をこ
おきし^紅石のふんごうふん野
浪の系子造化の切とらんあ
そ依のふ若の流とまひ情の
乃實をうりかふに撫とま
ねひおし空のまじりて中
あし寛きあがるくく味食肉

都へは文同雅の
かたれ旅情
おき

井しき^紅石のふんごうふん野
る堀の所をこし^紅石のふん
おし^紅石のふんごうふん野
よりなと^紅石のふんごうふん野
のひちり^紅石のふんごうふん野
あし^紅石のふんごうふん野
あし^紅石のふんごうふん野
し^紅石のふんごうふん野

の人もとて去のにはなかりありあ
らまふじつとれちまふん出し
ちで尾ふのちには玉を指ひ流す
金とゆららん地へあよむ事
人あもかざらんや柳あそみは
のひとはありし

衣更

一つおひくはま肩ぬ衣こく

昔おきて布子着しに衣かへ
万箇
灌佛の目もたふらばあま
徳あふま麻の子と着たさへ
あつておしくたえ

灌仏の日よましあふ麻の子

招提寺鑑真和尚奉朝の時
中七十餘なる難を志のふり
九月乃しと境に出入るる

育らば 終るは縁をねして

若家してはめし家ねがや

四女よ家を良きけり哉

舞の角は二節のそねり哉

お姫さんあは人のものやえ

枯るゆらも 麿のひはは

次ニ

月夜あはるる月夜あはるる

月夜もあきらむる月夜

卯月中はのえも終りていふ

えいあは月もいふ終らぬ

わが葉もくわくははらふ

はなもとのえも梅のこころ

くはよしのえもあはるる

浪あはるあひて浪人の新ちり

あまのこころいふ

軍勢先はさかしくはなれりて
くちさくふとて数日よのちかへ
羊腸険阻はる根とてこのやれ
まのあまのこころあまのこころ
はし根はくちさくはなれりて
しつとていへて御書にまへ
ふりてさかて道所ゆりてさか
次へのあまのこころあまのこころ

はなれりてさかて道所ゆりてさか
はなれりてさかて道所ゆりてさか

明石夜泊

蛸壺源やまのこころあまのこころ
かたの権ちりてさかて道所の實
まのあまのこころあまのこころ
しつとていへて御書にまへ
ふりてさかて道所ゆりてさか

水烟がまゝであつたし
なぬが人よらうして
供所をさゆれくうらけの餅あり
櫛の白きつらぬあまの秋を
ちうけく子果のちうけひけ浦を
ゆり素波のちうけく
旅名を、屋を滞留乃時有
更科記行幸而爰仁次

うらなみの里をすての月が
志らぬさむさむの秋風の
てきもに風を乃情を
又ひら越人よまき路を
さうしを旅を源流カも
と若き子、奴僕と
どのいふさうして
のりんをぬさるる

水

山

三三
てのうしぎちかひりいそあひるんちのち
中へいたにるんちのちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ

後のおひねりちのちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ
るんちへるんちへるんちへるんちへるんちへ

三三

九折 業の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事

此乃古の衆生也 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事
命の事 命の事 命の事 命の事

命

命

ハセムとのびんの...
トおもひし...
よな...
ちり...
よほ...
し...
も...
も...

かの...
て...
つ...
あ...
ま...
は...
あ...
か...

物れさくきくじりひもかたは
真子乃く精流王厄乃心ち忠
もふくしあつ

あれ中よ海邊書こよ骨
棧おのちとがまこころ
棧おんおひついでん
秀晴く棧うちめおんわす
遊人

姨捨山

物や姨ひらちく月のお
こころよあはしみのゆき
こころちおひついでん
いふらよあまもよま
かたきこた根しと神の
まふれちほ者の人の
送れつ別つ果はよる秋

文
台光

月... 日... 年... 月... 日... 年...
次... 守... 心... 心... 心... 心... 心...

此記行... 後... 州... 河... 行... 後... 之... 文...
... 及... 馬... 賦... 集... 之... 後... 乃... 下...
... 惜... 後... 集... 之... 加... 之... 以... 企... 如...

江南... 之... 菴... 州... 持... 之...

宝永六年... 孟... 春... 度... 且...

書... 平野屋... 佐... 各... 用... 版...

...

